

ラグビー観戦の心理に関する WEBアンケート結果

背景: スポーツの『主観的幸福感（ウェルビーイング）』の『見える化』
が求められています

アンケート実施期間：2026年6月10日～21日

研究実施者：（公益財団法人）日本ラグビーフットボール協会会長・土田雅人
（一般社団法人）ジャパンラグビーリーグワン理事長・玉塚元一
（一般財団法人）日本スポーツ政策推進機構理事長・河野一郎
同スポーツ政策研究所・主任研究員・名古屋大学名誉教授・佐々木康

協力：ジャパンラグビーリーグワン・坂上勇輔／中山和哉

連絡先：koh.sasaki@nspc.or.jp 佐々木康

研究協力者（回答頂いた方々）：14,851名

■主な質問項目

- Q. 観戦方法（スタジアム、TVなど）、観戦頻度、ラグビー外の観戦スポーツ
- Q. ラグビー観戦があなたの心理・意識に与える影響について、当てはまる程度を教えてください。
（0%、5%、10%、20%、30%、50%～から選択）
1. 観戦はストレス解消に役立っている
 2. 観戦は労働・勉強の効率をあげてくれる
 3. 観戦は友人・家族との絆を深めてくれる
 4. 観戦は身体健康状態やトレーニング効率をあげてくれる
 5. 観戦は社会の幸福感を高めてくれる
 6. 観戦は支援企業の好感度を高めてくれる
- Q. ラグビー観戦で最も幸せを感じる瞬間はどんな時ですか？（自由記述）

※ 5分ほどで終了する匿名アンケートで、個人が特定されることはありません。また途中でもアンケート回答をやめることができます。アンケートの集計結果については、（nspc.or.jp）で公開いたします。本研究は日本スポーツ政策推進機構スポーツ政策研究所/研究倫理委員会の承認を得ています。（番号26-1）

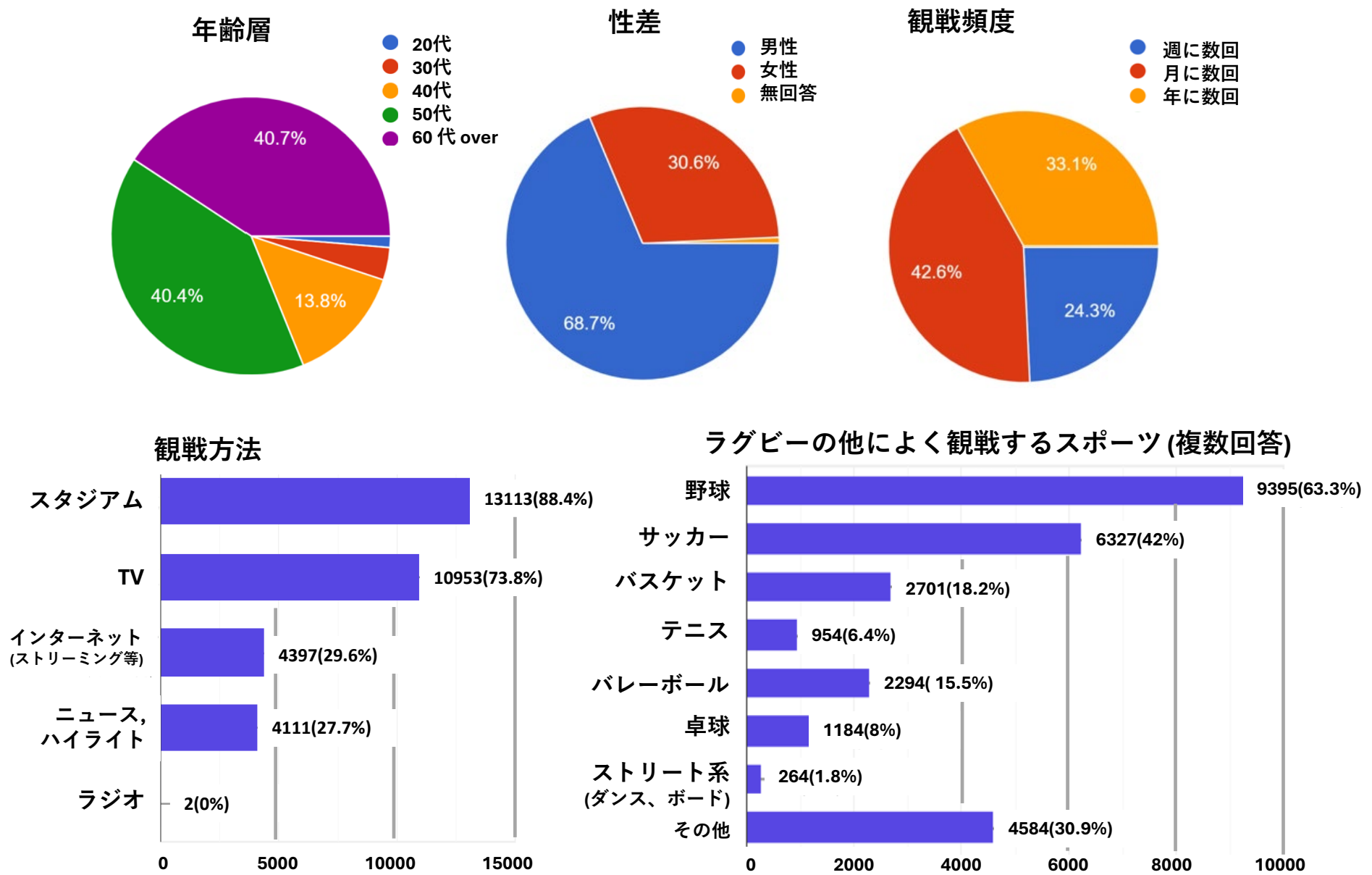


Figure 1 調査協力の方々のプロフィール

回答頂いた方々は「50歳以上」、「男性」、「月に数回以上観戦」というコアなラグビーファンが多いようです。

約15000人の方々の御回答、『ラグビー観戦によって労働効率が平均30%向上する（仕事の決断力や実践力の効率化）』という価値は社会にとって大きなインパクトと考えられます。

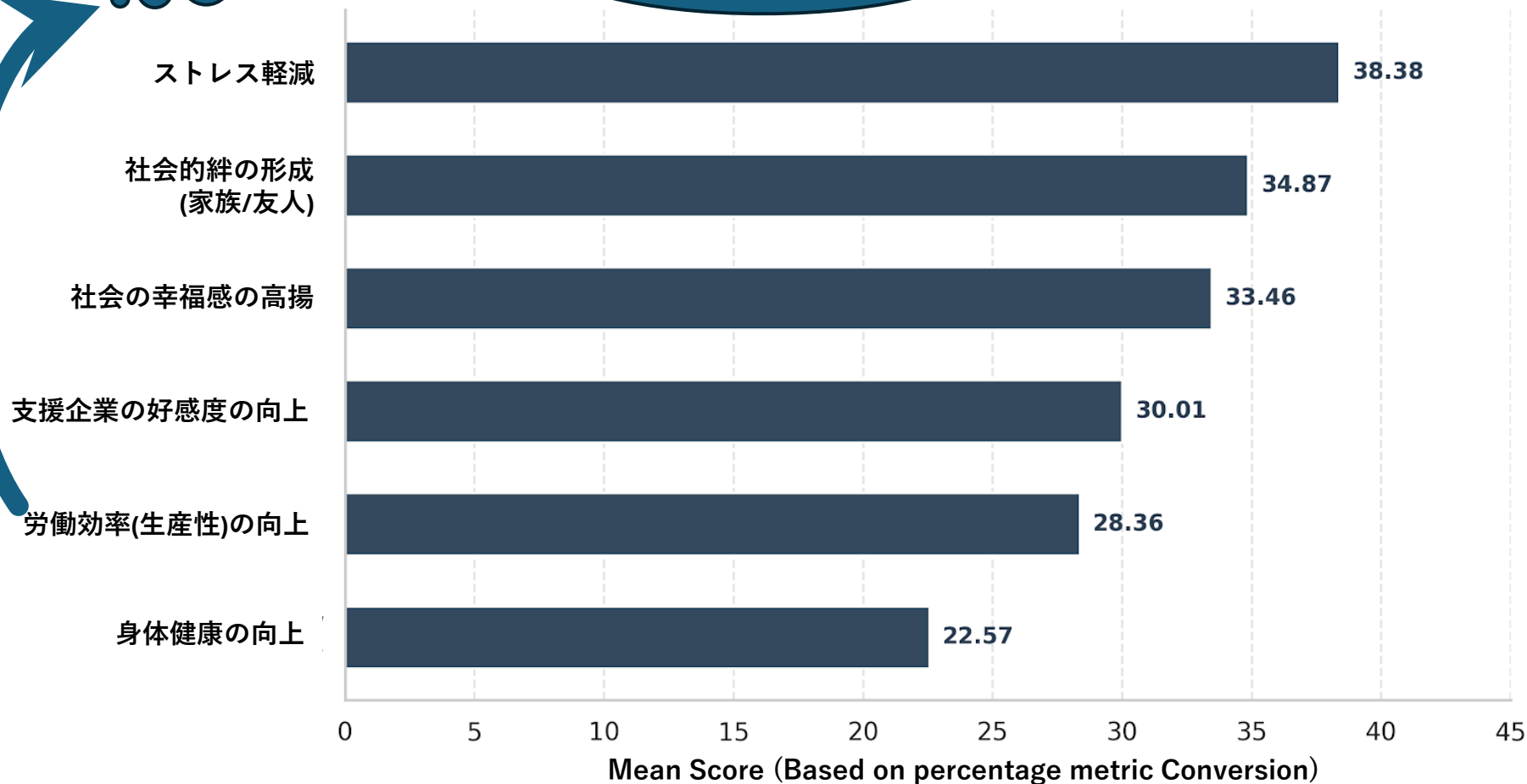


Figure 2 ラグビー観戦があなたの心理・意識に与える影響度 (%) 1 (順位)

回答で最も高い割合が「50%以上」、全力でラグビー観戦に関して好意的な回答を頂きました。

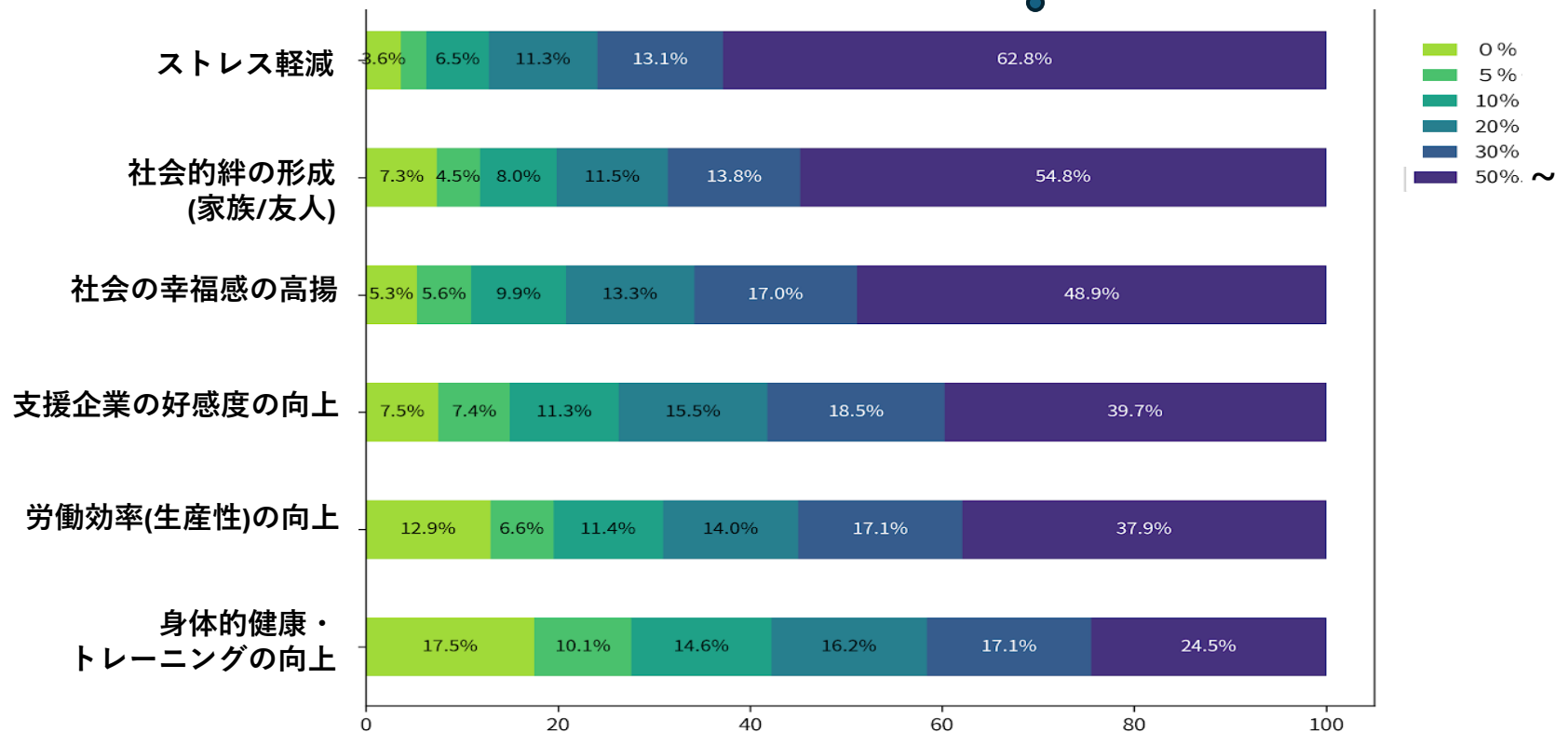


Figure 3 ラグビー観戦があなたの心理・意識に与える影響度 2 (分布)

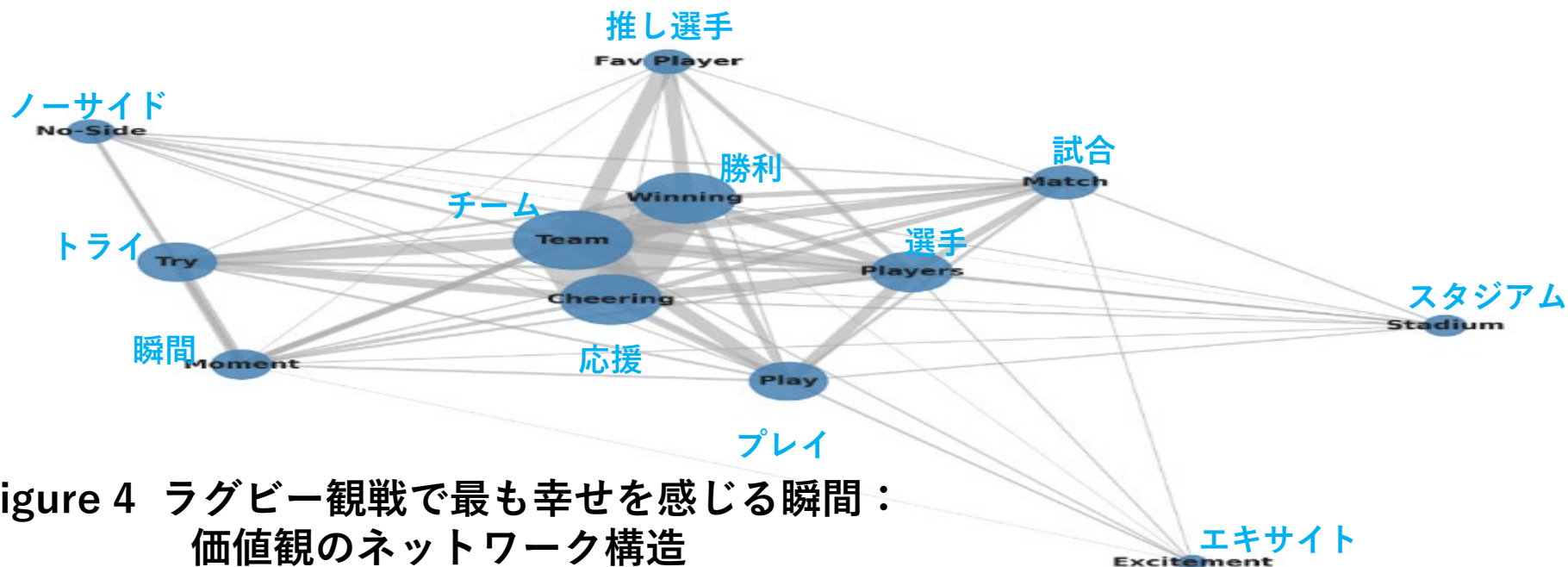


Figure 4 ラグビー観戦で最も幸せを感じる瞬間：
価値観のネットワーク構造

1. 中心的価値: チーム / 勝利 / 応援 : ネットワークの中心で強い線で結ばれています。「応援するチームが勝つ瞬間」が観客にとって普遍的で最大の幸福の源泉であることを示唆しています。
 2. ラグビー特有の競技・美学価値(左から中央へ): トライ / 選手 / プレイ / モーメント(瞬間) : 「トライ直前の攻防」「選手の素晴らしいプレーを目撃する瞬間」などダイナミックな競技特性と強く結びつきます。
ノーサイド価値: ゲームはウェブ(網の目)のように「トライ」「試合」「選手」など多様な価値と繋がり、激しい戦いの後に敵味方なく健闘を称えあうハグや握手の瞬間にラグビー特有の幸福を感じる方が多いようです。
 3. 個人の愛着とスタジアム体験価値(上、右側) : 推し価値: 「チーム」と「選手」で太い線で繋がり「推し選手やチームの活躍」自体が独立した強い幸福感の要素になっています。
スタジアム/エキサイト(感動) 価値: 「試合」と「プレイ」に繋がり、現地空間(スタジアム)の生の空気感と一体感に包まれた「感動」の瞬間が固有の体験的価値として切り出されています。
- 自由記述からは「勝てて嬉しい」だけでなく「献身的にプレーする選手を応援し(応援→選手)、素晴らしいプレーやトライの瞬間を目撃し(Play → Try → Moment)、試合が終わればノーサイドで称えあう(Match → ノーサイド)」というラグビー特有の価値ネットワークに、**ラグビー観戦者は、幸福感(ウエルビーイング)の可能性と『観戦の哲学』**を見出しているのかもしれない。

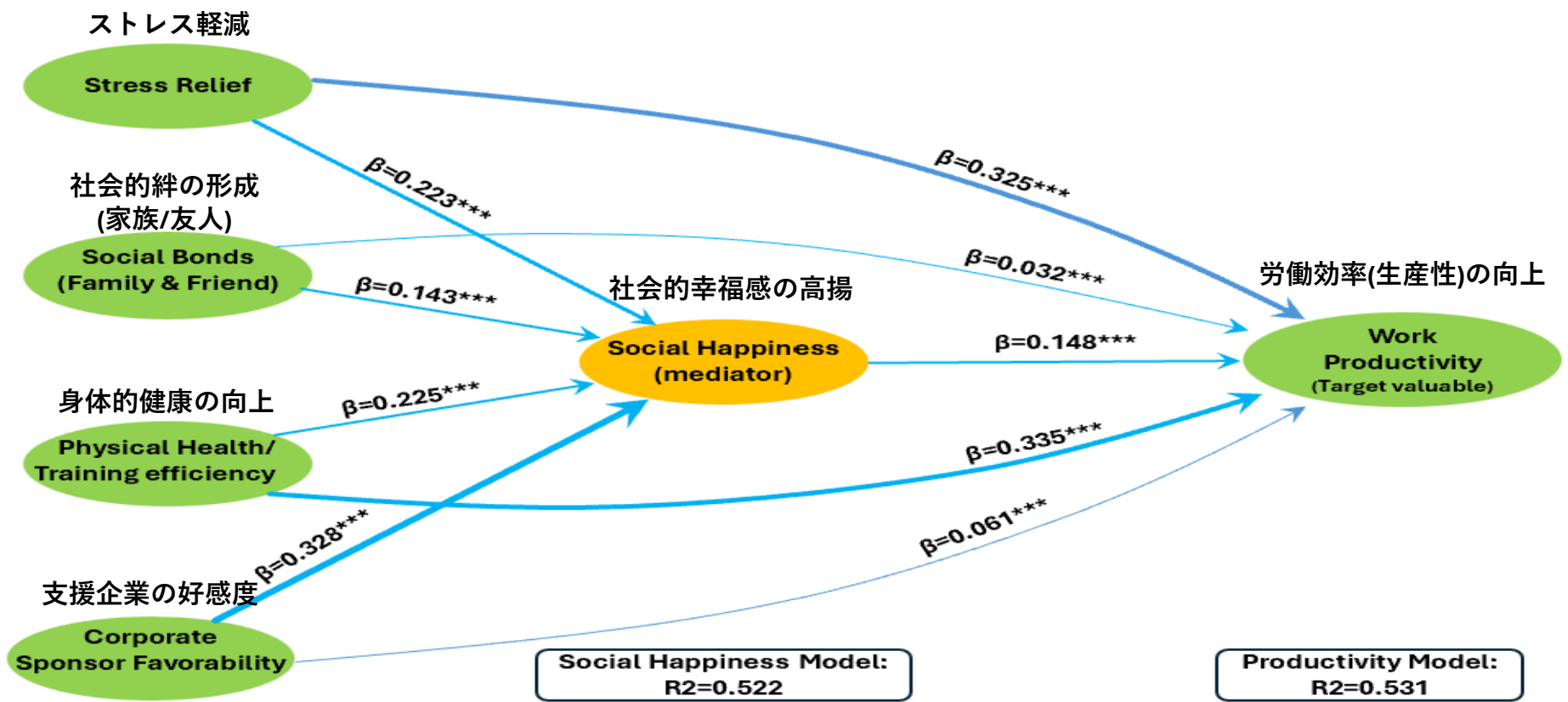


Figure 5 Path Analysis Model for Personal, Social, and Labor Productivity Values of Rugby Watchers (Standardized Path Coefficients: β)

社会の活力として「労働生産性の向上」を最終目的とするモデルから、「スポーツを支援している企業に対して好感を持つこと」「絆の形成」といった価値が連鎖するという、非常に興味深い構造が明らかになりました。「**企業がスポーツをサポートし、それに対して観戦者が好意を持つ**」という関係性が、観戦者にとって「**社会が豊かである、幸福である**」とを感じるための重要な架け橋になっている可能性を示唆しています。

観戦により労働生産性は平均**28.3%**向上すると回答されました⇒関連する研究を参照すると、そのうち10%程度が実体経済に影響を与えると保守的（過大評価を厳密に抑制する）に設定する操作的定義

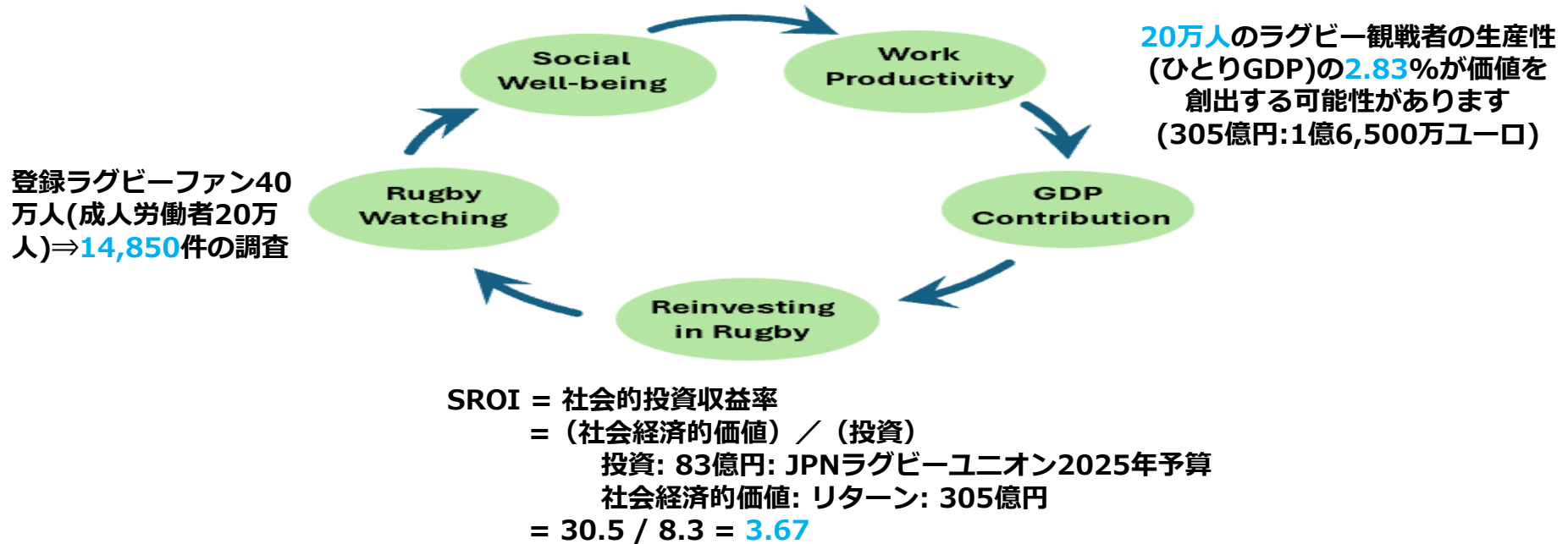


Figure 6. Sports Wellbeing (Work Productivity) GDP Contribution cycle Model
 スポーツウェルビーイング（労働生産性）GDP貢献サイクル・モデル

自己申告データには過大評価バイアスが含まれる可能性があります。そこで先行研究(Barrero、2021など)にならない心理の実体経済に対する影響をさらにその10%とし、過大評価を厳密に抑制する保守的シナリオ(すなわちGDP効果2.83%)」を採用しました。SROI分母の妥当性: ラグビー環境を支えるすべての投資(企業スポンサー、自治体補助金、スタジアム維持費など)をカバーすることは不可能です。そこでJRFU予算を「日本のラグビー環境を監督・維持する中核投資」と定義しました。SROI分子の妥当性: 分子(リターン)は医療費削減や地域再活性化などの社会的価値を除外し、労働生産性の向上(GDP創出)にのみ焦点を当てる保守的な推定値です。分子と分母の両方を「直接要素とコア要素」に絞りこむプロセスで、モデル構造は『不当に歪められているとは考えにくい』と解釈されます。

皆様に協力いただいた本研究、ウェルビーイング価値推定モデル試行版は下の英国の研究誌に掲載が決定し印刷中です(20260717)。この場を借りて改めて御協力に感謝いたします。

今後とも日本ラグビーの発展に皆様のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

Sasaki Koh, Tsuchida Masato, Tamatsuka Gen-ichi, Yamagami Takashi, Shoji Hajime, Kawahara Takumi, Sakamoto Noriyuki, Kono Ichiro: Economic Valuation of Sports Well-Being: Quantifying the Impact of Rugby Match Watching on Work Productivity and GDP in Japan. *London Journal of Humanities and Social Science*. 2026.

本研究結果についてのご意見・ご質問は以下のアドレスにお寄せください。個人情報秘匿は厳守致します（ラグビー紳士淑女協定です）。

koh.sasaki@nspc.or.jp